

式辞

二年生の皆さん、今日のおき日に、立志の式を迎えることができたこと、本当におめでとうございます。皆さんの胸中は、今どんな思いに溢れていますか。きっと夢の実現に向けて邁進していくんだという気概に満ちあふれているのではないのでしょうか。そんな皆さんに、次のような言葉を紹介します。

何があっても諦めるな！夢を追いかけていたら、必ず壁にぶちあたります。うまくいなくて悔しい思いをしたり、恥ずかしい思いをしたり、どうしていいか分からなくなったり。でも、それはは当たり前です。だって、お前らが追いかけているのは夢なのだから。簡単に手に入らないから夢なのです。それに、打ち勝って掴むのが夢なのです。やりたいと思わないならやらなくていい。でもやりたいと思ったら諦めずにやってください。真剣にやってください。(中 略) 真剣にやるのは若い君たちにとって恥ずかしいことかもしれません。馬鹿にしてくるやつもいます。でも、九十九人が馬鹿にしても一人が応援してくれればそれでいいじゃないか。一人が笑ってくれればいいじゃないか。(後 略)

この言葉は、江頭五時五十分さんが、ある入学式のスピーチで述べられた言葉です。皆さんも、エガチャンネル等でご存じだと思いますが、以前は、嫌いな芸人ランキングで九年連続一位になり、芸風もハチャメチャで、トルコでは全裸になり、捕まったこともあるなど、好き嫌いがはっきりする芸人さんです。その江頭五時五十分さんの言葉を、この立志式で皆さんに紹介したかですが、それは、次の言葉が校長先生の胸に突き刺さったからです。

それは、真剣にやるのは、若い君たちにとって恥ずかしいかも知れません。という一節です。どうでしょうか、皆さんは、周囲からの目を気にしていませんか。真剣に取り組んでいる姿を笑われたりしたらどうしようとなんで、考えていませんか。

以前、精神科医で心理学者であるアルフレートアドラーが創始した、アドラー心理学の著書の中に、他人の自分に対する評価は変えることができない。変えることができるのは、自分自身だけである。だから、自分自身を大切にすることが重要ですという文言がありました。校長先生は、自分自身が一生懸命頑張ったら自分で自分を思いっきり褒めることが大切なのだと自分なりに解釈をしました。

皆さんは、何かをすると褒められる。逆に叱られる。私は友達から嫌われているのかな？と考えたことはありませんか。アドラー心理学では、そのようなことは不要で、他人の評価は一切考える必要がないといっています。なぜなら、他人を変えることは不可能だからです。江頭さんが述べているように、九十九人が馬鹿にしても、一人が応援してくれればそれでいいんです。一人が、笑ってくれればそれでいいんです。大切なことは、自分自身に嘘をつかず、正直に生きていくことだと思います。

皆さんは、これから、自分の夢に向かって少しずつ歩み始めることとなります。くじけそうになった時に思い出してください。何があっても諦めるな！です。くじけずに、何回も何回もチャレンジを続けてください。それでも無理な時は、立ち止まって考えてみてください。そして、どうしても無理な時は、次の夢に向かって歩み始めてください。一生懸命に打ち込む姿は、時には恥ずかしく感じるかも知れません。それでも、自分を信じ愚直に、我武者羅に突き進んでいってください。そうすれば、自分の夢を掴み取ることができると思います。「自分を信じる」ことが大切です。

保護者の皆様、本日、お子様が、立志の式を迎えることができましたこと、誠にめでとうございます。私たち教職員は、今後も、お子様の中学校生活が、感動の喜びや笑顔に包まれるよう、全力で取り組んで参りますので、これからも、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

結びに、二年生の皆さんの一人一人の輝かしい未来を期待するとともに、両校の更なる発展を、祈念して、式辞といたします。

令和六年一月二十六日